

ユーラシアンホットライン

**愛川町とロシア連邦サハ共和国との交流は6年目。今年から年二回（春と夏）、子どもたちを受入れ
ー1月25日来日、8月1日音楽祭、8月5日成田発帰国ー**

**1年目の2016年は、3月27日来日、4月5日帰国。テティムの子どものグループと大人たちのグループの2
つのグループが愛川町との国際交流を目的に来日します。**

ルーブルの下落というロシア経済の悪条件にもかかわらず、ロシア連邦サハ共和国の太鼓文化再生を目指すサハ青少年太鼓グループテティムは、2015年春に続いて、夏も、子どもたちを愛川町に送ってきました。NPO ユーラシアンクラブ愛川サライは、地域のまちづくりに取り組む「まちづくりネットワーク愛川」の協力を得て、無事子どもたちの研修を実施し、その成果を披露する音楽祭を開催することが出来ました。以下は、「まちづくりネットワーク愛川」（諏訪部勲代表）の事業報告です。

（2015年 写真アルバム）

1. サハ・テティム和太鼓研修報告

県立愛川高校武道室（7.27～31）

2. アジア・シルクロード音楽フェスティバル

～笛と太鼓の祭典～

愛川町農村環境改善センター（8.1）

3. 地域交流会（ホームステイした春日台地域との交流）

春日台会館（8.30）



サハ・テティム研修受け入れ実行委員会

NPO ユーラシアンクラブ・愛川サライ

2015 年夏 サハ・テティム和太鼓研修のご報告 (平成 27 年 8 月)

サハ・テティム研修受入れ実行委員会、NPO 法人ユーラシアンクラブ・愛川サライ

ロシア連邦サハ共和国太鼓ユニット『テティム』の愛川高校武道室をお借りしての和太鼓研修は、猛暑の中無事終了しました。(7 月 26 日入国、8 月 4 日出国、子供 6 人一行 9 人)

7 月 27 日～31 日 (愛川高校での研修 5 日間)

7 月 30 日 16:00～18:30 (春日台会館での地域交流会)

8 月 1 日 (土) 14:00～17:30 (アジアシルクロード音楽フェスティバル～笛と太鼓の祭典)

この研修は、サハ共和国に元あった太鼓文化再生を目指す『テティム』の指導者ハトラエフ夫妻の要請によって平成 22 年始まりました。佐渡『鼓童』の太鼓奏者金子竜太郎氏の指導の下、県立愛川高校長、和太鼓部員、その卒業生ユニット『打縁』の皆様の理解とご協力を得て回を重ねてきました。今回で 5 回目となる研修は、指導を赤川猛先生(元愛川高校和太鼓部創設者)にお願いし、太鼓の県大会を目指す高校生と一緒に研修を受けるという新しい方法で 5 日間実施されました。

サハ共和国では、日本研修によって子供が太鼓技術の習得のみならず勉学や人間としての成長に大変よい効果があったと評価され、会員は当初の 10 倍の 150 人にも増え、今年は年間 2 回もの派遣となりました。来年の春休みには、子供と一緒に父兄も日本観光と人の交流を目的として来日することが決まりました。

この研修は、日本での滞在旅費の全てをサハの研修生の親が負担し、研修の後に行う音楽祭(研修成果発表とプロの楽器演奏の鑑賞、また愛川町内とその周辺の笛・太鼓愛好集団を招いて行う演奏交流)を日本の受け入れ側が負担するという形で発展してきました。その企画は NPO 法人ユーラシアンクラブ・愛川サライが行い、運営は『サハ・テティム研修受入れ実行委員会』が行っております。

8 月 1 日、町農村環境改善センターでの音楽祭『笛と太鼓の祭典』では、猛暑の中 150 名の入場をいただきました(関係者含む)。暑さを我慢してご覧いただいた皆様は、プロを交えた音楽祭を感激してご覧になりました。(アルバム(2)、チラシ、プログラムご参照)

今回は冷房のない体育館での開催となったため、入場無料で開催しました。従って経済的には大変厳しい開催でしたが、入場者の募金、寄付により何とか実現することができました。

海外から研修生を受け入れる場合、周辺に 1 週間利用できる公共の宿泊所がないため、研修者の費用負担が大きくなり、特にロシアの通貨ルーブルの大幅な下落によって、宿泊場所の確保に苦慮しました。しかし春の研修の際、春日台の国久さんと三井さんのご理解によってホームステイの道が開かれ、ようやく実現しました。そこで、春の研修から春日会館で地域交流会を開くことにしました。夏の交流会は(7 月 30 日 16:00～18:30)、春の交流会を 1.5 倍上回る 76 名の参加がありました。(アルバム (3)ご参照)

地域の特徴ある文化歴史を活かし、外部に情報発信し、外部から人を呼び込むこと、これは産業振興と並ぶ重要な地域の要請、時代の要請です。私たちはその必要性を確信し、偶然できたサハ・テティムとの太鼓と人の交流を機会とし、町農村環境改善センターを練習場所とする周辺地域の太鼓集団との連携、60 数年間眠っていた八音神社奉納太鼓の復活と歩みを進めてきました。様々困難はありますが、大変意義あるこの事業には是非皆様のご参加をいただきたいと思います。今後多くの皆様がこの事業に参加ができるよう、情報発信と接触の機会をつくってまいります。宜しくお願い申し上げます。

2015 年夏 サハ・テティム和太鼓研修受入れプログラム（実施結果）

サハ・テティム和太鼓研修受入れ実行委員会
NPO 法人ユーラシアンクラブ・愛川サライ

【サハ研修団】 一行（9 人）

小中学生 （8～13 才）6 人（男性 5、女性 1）
指導者： 2 人（ハトラエフ夫妻 53 才、52 才）
通 訳： 1 人（女性 28 才）

【研修期間】

2015 年 7 月 26 日（日）～8 月 4 日（火）10 日間
うち愛川町滞在期間 7/26（日）夕～8/2（日）朝 8 日間

【指導者】

赤川 猛（愛川高校元和太鼓部顧問） （今回から金子竜太郎氏（鼓童）より引継ぐ）

【研修場所】 県立愛川高校武道室

【宿泊場所】 ホームステイ 合計 10 人（サハ 9 人＋日本人ロシア語通訳 1 人）

- ① 国久宅（春日台） 2 人（サハ指導者夫妻）
- ② 三井宅（春日台） 2 人（女性、研修生・通訳）
- ③ タウンカフェ（2F）7 人（男性、サハ研修生 6＋日本人ロシア語通訳 1、7/28 日以降）
風呂は「川正旅館」と契約（毎日）。マイクロバスにて送迎。
愛川高校への往復は、「川正旅館」のマイクロバス送迎を契約。

【スケジュール】

月 日	研修（愛川高校）	行 事
7 月 26 日 （日）	ハパロフスク経由成田着 16:30 春日台着	19:00 歓迎会 （春日台タウンカフェ 20 人）
27 日（月）	9:00～16:00	12:00～13:30 親睦バーベキュー （中津川 仙台下河川敷 21 人）
28 日（火）	9:00～16:00	4:30～5:00 100 円ショップ買い物 18:00～19:00 夕食会（杉原料理、タウンカフェ）
29 日（水）	9:00～16:00	
30 日（木）	9:00～14:00	14:00～18:30 地域交流会（演芸交流） （春日台会館 76 名）
31 日（金）	9:00～16:00	17:00～21:00 仕込み
8 月 1 日（土）	9:00～13:00 リハーサル	14:00～17:30 「笛と太鼓の」音楽祭 150 人 19:00～21:00 打上げ 26 人 （会場：町農村環境改善センター）
2 日（日）	7:00～ 富士山、海水浴	（レンタカー大野運転、杉原夫妻随行）
3 日（月）	東京、ディズニー観光	（案内：ユーラシアンクラブ東京、杉原夫妻随行）
4 日（火）	帰国	

【食 事】

月／日	朝食（タウンカフェ）	昼食（主に県立高校）	夕 食
7／26	---	---	杉原さん料理
7／27	一日お母さんの朝食	バーベキュー（仙台下）	「バーミヤン」店
7／28	コンビニで自分で購入	弁当（ほっともっと）	「台湾料理金龍」
7／29	一日お母さんの朝食	弁当（ほっともっと）	「マクドナルド」店
7／30	自分で購入	弁当（ほっともっと）	自分で購入（カフェ）
7／31	一日お母さんの朝食	弁当（ほっともっと）	弁当（ほっともっと）
8／1	自分で購入	大野さんヒマラヤカレー 杉原さんシチュー 出演者 45 人 技術スタッフ 4 人 スタッフ 15 人	カレー、オードブル おにぎり 打上げ参加者 26 人

【地域交流会】

（ホームステイする春日台区の皆さんとの交流）

期 日：7月30日 16:00～18:30 会場：春日台会館

入場者：76人

（挨拶） ①実行委員長挨拶 諏訪部 勲、② 春日台区長挨拶 水越 武、③ハトラエフ夫妻挨拶
④ 愛川サライ 大野 遼（閉会）

（演芸） サハ一行： 太鼓、口琴、独唱、合唱・・・9人

愛川高校生： 太鼓・・・5人（顧問1人含む）

地 域： 中津第二小学校“こども遊び塾”エイサー6人、オカリナ演奏3人、
日本舞踊2人、カラオケ2人、桑の実コーラス10人・・・計23人

合計出演者 37人

【音楽祭 ～笛と太鼓の祭典～】

期 日： 8月1日（土）14:00～17:30

会 場： 町農村環境改善センター（体育館）

出演者： 合計45人（うちプロ奏者7人（海外3人ネパール、モンゴル））

入場者： 約150人

入場料は今回無料

プログラム： 別紙資料（プログラム）

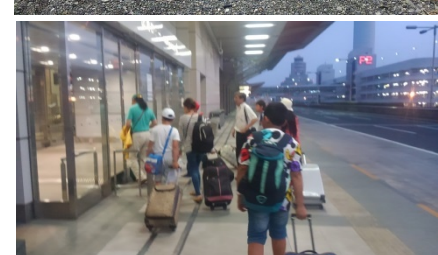
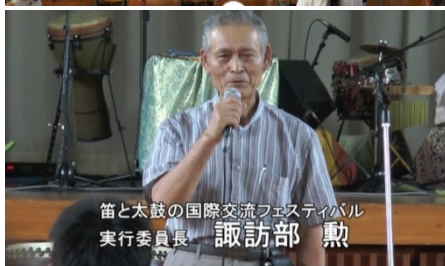
以上

◎ 来年以降の受け入れに当たっては、早めに町民参加による実行委員会を発足させるという提案が強く出され、今後の太鼓文化をキーワードとする国際交流の発展のため、若者が活動に参加することを念頭に、元愛川高校和太鼓部顧問で現在も和太鼓部の指導を続ける赤川猛さんに組織委員長をお願いしました。諏訪部勲さんが引き続き実行委員長、大野遼が企画制作を担当することは変わりませんが、活動に参加する人をまとめ、活動を拡充する仕事を赤川さんをお願いすることになりました。今後、来年3月27日に来日するテティムの子どもたちとサハの親たちを同時に招へいし、子どもたちの太鼓研修と音楽祭、日本の伝統文化と自然や現代の暮らしに触れる大人たちの国際文化交流という、二つの受入れプログラムを作成し、多くの町民が参加する愛川町とサハ共和国の交流に発展させたいと考えています。今後ともご理解ご協力をお願いいたします。









「岩に刻まれた古代美術 アムール川の少数民族の聖地シカチ・アリャン」展

国立民族学博物館の観覧者は27,390人。9月19日～10月25日、新潟県立歴史博物館

シカチ・アリャン村の教諭ドンカン・ビクトリヤさんが来日

9月18日、オープニングに列席、須藤健一国立民族学博物館長、在新潟ロシア総領事らと挨拶

国立民族学博物館で5月21日から7月21日まで開催された上記展覧会の観覧者数は27,390人でした。企画展としては高評価を得た結果と判断されます。第2回目の展覧会会場は、新潟県立歴史博物館に移し、9月19日から10月25日まで開催されます。18日のオープニングにあわせて、シカチ・アリャン村の教諭でNPO メデ・ツェントルの代表ドンカン・ビクトリヤさんがユーラシアンクラブの招聘で来日、シカチ・アリャン村がユーラシアンクラブと企画制作した展覧会について解説し、開催に感謝しました。

オープニングには、国立民族学博物館の須藤健一館長のほか新潟県北窓隆子副知事、そして主催館の新潟県立博物館の矢澤健一館長らが列席、意味のある企画展開催を祝いました。展示場は、ゆったりしたスペースを利用して、シカチ・アリャン村でドンカン・ビクトリヤさんが住民の協力で収集した民族衣装が表からも裏からも観察できるよう工夫され、岩絵の拓本資料もオクラドニコフ調査地図の岩絵番号で確認でき、現地の写真資料と照合できるようになっていました。展示場には、シカチアリャン村の資料のほか、国立民族学博物館所蔵品の中からナナイの世界観理解に参考となる壁掛け、ハバロフスクのミハイル・ムーリーさんが地上120mから撮影したパノラマ写真も掲示されていました。展示を製作した宮尾亨・新潟県立歴史博物館専門研究員は、「なんどもおいでになり、よくご覧になって下さい」とアピールしておられましたが、確かに一度通して見るだけでなく、私が製作した解説図録も読みながら、繰り返して鑑賞していただく意味のある展覧会となっています。皆様どうぞおいでになって下さい。観覧に当たっては、ぜひ「解説図録」をお買い求めください。



オープニングセレモニーで挨拶する須藤健一・国立民族学博物館長（上左）、ドンカン・ビクトリヤさん（上右、新潟県立歴史博物館の企画展開催テープカット（中央はヤーセネフ在新潟ロシア総領事館総領事）





○ 10年にわたり、先住民族の交流拠点として活動が続けた「カムイミンタラ」閉所式開催される
 ドンカン・ビクトリヤさんも閉所式に出席、カムイノミに参加、挨拶
 モンゴル・フフ・クラブ、ユーラシアンクラブ、愛川サライも参加、今後の活動への協力を表明

カムイミンタラは、浦川治造さんが 10 年前、仲間の協力で自力で設置、アメリカの先住民族等も訪問する交流拠点として活動してきました。モンゴル・フフ・クラブ等ユーラシアンクラブの仲間も多数訪れ、文化交流に使用されてきましたが、今後は八王子や大月に拠点を移し、今後も活動を展開する計画です。浦川さんはこれまでに 3 回、シカチ・アリヤン村を訪問し、ドンカン・ビクトリヤさんと面識がありました。ドンカンさんは、挨拶で「カムイノミに参加して、アイヌの儀式がナナイのものによく似ているだけでなく、民族衣装の文様もよく似ている。どうぞシカチ・アリヤン村においでください」と話しました。閉所式では、アイヌのトンコリ演奏やウルグンさんによるモンゴルの馬頭琴演奏が紹介され、バーボルドーさんの司会でモンゴル相撲の優勝力士 4 人による総当たり戦が繰り広げられました。



<バイオマス産業社会ネットワーク (BIN) 第 152 回研究会のご案内>

日 時：2015 年 10 月 27 日 (火) 18:30～20:30
テーマ：「再生可能エネルギー電力固定価格買取制度 (FIT) における木質バイオマス発電とその事業採算性評価 (仮題)」
講演者：柳田高志氏 (森林総合研究所加工技術研究領域 木材乾燥研究室)

会 場：地球環境パートナーシッププラザ

(東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学 1F)

地下鉄表参道駅より徒歩 5 分・JR 他渋谷駅より徒歩 10 分

<http://www.geoc.jp/access>

参加費：BIN 会員 無料、一般 1,000 円

※再生可能エネルギー電力固定価格買取制度 (FIT) 開始後、木質バイオマス発電の未利用木材・一般木材の認定は 100 件、170 万 kW を超えました。※木質バイオマス発電は、火力発電であるため、大規模になるほど経済性がよくなりますが、一方でその分大量のバイオ

マスを調達する必要があります。※森林総合研究所の柳田高志氏からは、木質バイオマス発電の事業採算性評価についての研究をしています。

http://www.jstage.jst.go.jp/article/jie/94/3/94_311/_pdf

※当日は、木質バイオマス発電事業の採算性、特にチップ買取価格や含水率との関係、また発電事業が直面する課題等について、参加者の皆様とともに活発なディスカッションができれば幸いです。

※参加をご希望される方は、下記よりお申し込みください。

<http://www.npobin.net/apply/>

※サーバーの不調等で送信できない場合は、お手数ですがお名前、お名前ふりがな、ご所属、電話番号、E-mail アドレスをご記入いただき、E-mail: mail@npobinn.net までお送りいただくか、fax もしくはお電話にてお申し込みください。

メディア・ユーラシア情報 ネットリサーチ

東京外国語大学「日本語で読む中東メディア」が注目 <http://www.tufs.ac.jp/common/prmeis/fs/> です。

【北アジア】

○ ロシアがシリア空爆開始、米国務長官「危険な行為」

2015 年 10 月 1 日 13:24 JST

【モスクワ/ワシントン 30 日 ロイター】 - ロシアは 30 日、シリアで過激派組織「イスラム国」に対する空爆作戦を開始した。ロシアの中東地域での軍事介入としては過去数十年で最大規模となる。一方、シリアの反体制派組織は、空爆で民間人 36 人が犠牲になったとしている。

ロシアのメディアによると、同国防省は、イスラム国の拠点 8 カ所を空爆したと明らかにした。山岳地帯の司令拠点などが空爆されたという。

米国務省は、イラクの首都バグダッドのロシア外交官が空爆開始予定の 1 時間前に米国に空爆計画を通知し、米機がシリア空域を避けるべきだと伝えたこと明らかにした。米当局者によると、ケリー米国務長官はロシアのラブロフ外相に対し、ロシアによる空爆は危険な行為だとの考えを電話で伝えた。

米ホワイトハウスのアーネスト報道官は、ロシアがシリアのアサド大統領への支援を「強めている」との見解を示した。

カーター米国防長官は、ロシアの空爆場所にイスラム国の拠点がなかったとみられると述べた。また、空域での衝突を避けるため「可能な限り早く」ロシア軍当局者と協議するよう米軍当局に指示した。

北大西洋条約機構 (NATO) のストルテンベルグ事務総長は訪問先の米国で、欧米の戦闘機との偶発的衝突を避けるための適切な対応がロシア側からなかったとして懸念を示した。

<http://jp.reuters.com/article/2015/10/01/mideast-crisis-russia-syria-us-idJPKCNORU2ZE20151001>

○ ロシア外相「空爆、イラクにまで拡大させない」 国連本部で会見

2015. 10. 2 01:08

【ニューヨーク＝黒沢潤】ロシアのラブロフ外相は 1 日、国連本部で記者会見し、ロシア軍がシリアで空爆を開始したことに関連し、「われわれはイラクにまで空爆を拡大させることはないと述べた。

<http://www.sankei.com/world/news/151002/wor1510020011-n1.html>

○ イラク首相 領内でイスラム国対象のロシア空爆なら「歓迎」

2015. 10. 2 00:49

イラクのアバディ首相は 1 日、ロシアがイラク領内でイスラム教スンニ派過激組織「イスラム国」を対象に空爆するのであれば「歓迎する」と述べた。ロイター通信が伝えた。

アバディ氏によると、ロシア側とはイラク領内での空爆について協議していない。ただロシアやシリアから、同組織に関する多くの情報を得ているという。

ロシア外務省高官は 1 日、イラクから空爆要請があれば検討する意向を示している。(共同)

<http://www.sankei.com/world/news/151002/wor1510020008-n1.html>

○ ロシアのシリア空爆 対象は全ての反体制派 専門家ら指摘

【10月2日 AFP】ロシアがシリアで開始した空爆について、専門家らは、最も大きな被害を受けたの同国政府とイスラム過激派組織「イスラム国 (Islamic State, IS)」の両者に対抗する反体制派勢力であり、バッシュアル・アサド (Bashar al-Assad) 大統領をあらゆる敵から守るというロシア政府の決意を示しているとの見解を示している。

また、ロシア政府の攻撃目標からは、アサド大統領を救うため、それが過激派であろうとなかろうと、全ての反体制派集団を攻撃する意図が読み取れると、専門家や監視団体は指摘している。

「ロシアがシリアに介入したのは、ダーイシュ (Daesh, IS のアラビア語名の略称) だけでなく、テロリストとみなす全

ての集団を攻撃するためであり、これには湾岸君主国とトルコが支持する組織も含まれる」と、シリア専門家のファブリス・バランシュ (Fabrice Balanche) 氏は説明する。

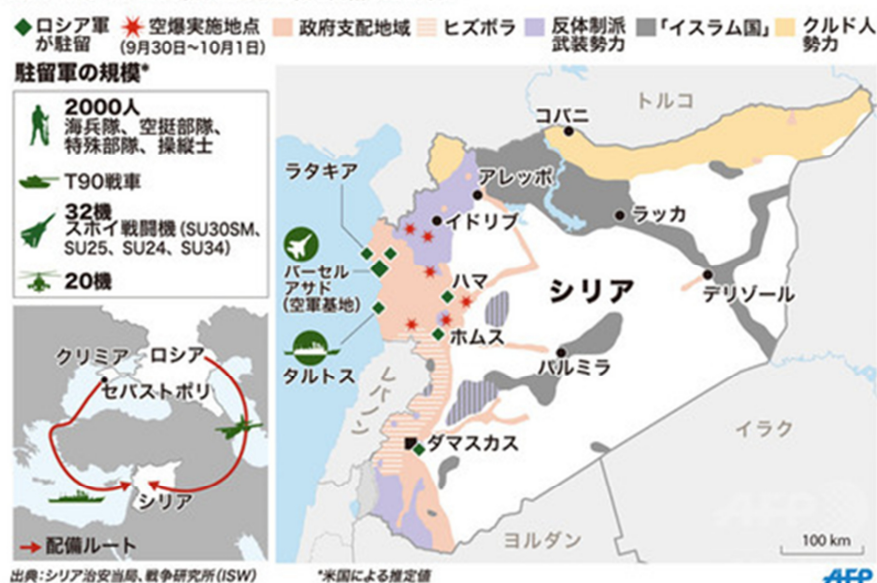
ワシントン近東政策研究所 (Washington Institute for Near East Policy) に寄稿した分析記事の中で同氏は「ロシアの空爆の第1波は、アサド政権のアラウィ (Alawite) 派中核地域を脅かしている反体制派の地域に集中していたとみられる。これは、ロシアが対テロリスト闘争よりもシリア内戦での主導権の獲得に重点を置いていることを示している」と指摘している。アラウィ派とは、アサド一族が属するシーア派 (Shiite) の一派。

ロシア軍がここ2日間で実施した空爆の標的は、国際テロ組織アルカイダ (Al-Qaeda) 系の武装組織「アルヌスラ戦線 (Al-Nusra Front)」や、強力なイスラム系反体制派武装組織「アフラル・シャーム (Ahrar al-Sham)」、そしてより小規模の穏健派勢力が掌握している地域だった。これら穏健派勢力には、米国やアラブ諸国から直接支援を受けているものも含まれる。

空爆は北西部のイドリブ (Idlib) 県、沿岸部のラタキア (Latakia) 県、中部のホムス (Homs) 県とハマ (Hama) 県で実

ロシアのシリア空爆

ロシアは、シリアに50機以上の航空機を配備したと発表



シリア領内でロシア軍が行った空爆や、各勢力が支配する地域を示した図。 (c) AFP

施されたが、これら地域はいずれも IS の活動

地域とはされていない。

■ 目的は「アサド政権支援」

アナリストらによると、ロシア空軍は、ラッカ (Raqqa) 県のような IS が最も強い勢力を維持している地域ではなく、アサド政権が最も脅威を受けている地域に攻撃を集中させている。

独立系シンクタンク「国際危機グループ (International Crisis Group, ICG)」のピーター・ハーリング (Peter Harling) 氏は「ロシアの目的は政権の防衛だ。この点において、非イスラム過激派の反体制派武装勢力は最も差し迫った脅威となる」と述べている。

また、在英の非政府組織 (NGO) 「シリア人権監視団 (Syrian Observatory for Human Rights)」のラミ・アブドル・ラフマン (Rami Abdel Rahman) 代表は、「ロシアは、アラウィ派地域が脅かされたり、攻撃されたりしているホムス、ハマ、ラタキアの各県で政権を支援するために空爆を行っている」と指摘している。 (c) AFP/Rana Moussaoui

<http://www.afpbb.com/articles/-/3062004>

【西アジア】

○イスラム過激派への外国人参加は倍増=米下院委員会

2015 年 09 月 30 日 17:15

【ワシントン 29日 ロイター】 - 米下院国土安全保障委員会は、シリアやイラクで活動するイスラム過激派グループに加わった外国人は約3万人で、このうち米国人が250人以上含まれているとの調査報告を発表した。1年前には、外国人戦闘員が1万5000人、米国人は100人と推定されていた。

調査は、過去6カ月間にわたり行われた。

報告は、内外で情報の共有を強化し、こうした戦闘員の脅威に対する全米規模の戦略を立てることが緊急の課題と指摘した。戦闘員のうち数十人は米国に帰国。このほか5000人が西側

のパスポートを所有しており、ビザなしで米国に入国できるという。

同委員会の マイク・マコウル委員長は「テロリストを殺害したり、米国に入らせないためにわれわれは数十億ドルを費やしている。だが米国社会内部からの予防や働きかけにはほとんど資金を投じていない。(テロリストの侵入の) 多くは、予防措置によって防ぐことができる」と述べた。

報告はまた、入国者のなかからブラックリストの人物を発見することや偽造パスポートの特定などの措置を講じていないとして、外国政府、特に欧州政府を批判した。

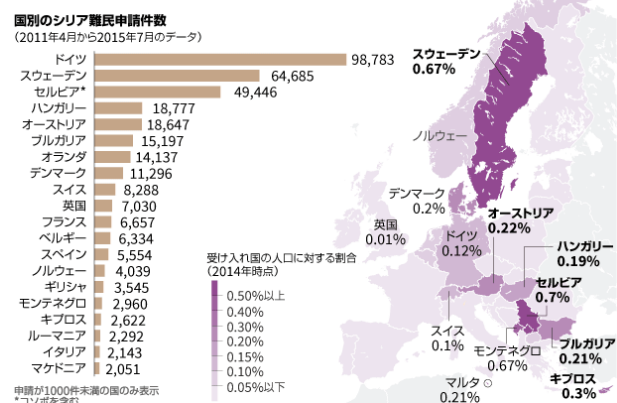
<http://jp.reuters.com/article/2015/09/30/mideast-crisis->

congress-fighters-id.jp/KCNORU00X20150930

○ 欧州へのシリア難民は、全体の 10%以下

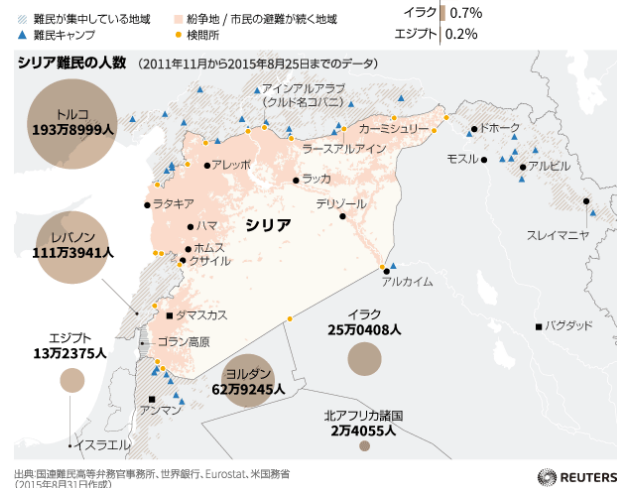
欧州への亡命を希望するシリア難民

2011年4月から2015年7月までに、欧州へ難民申請を行ったシリア人の数は34万8540人。申請を受けた37カ国の全人口(2014年)の0.06%にあたる。



増加し続けるシリア難民

国連難民高等弁務官事務所によると400万人以上のシリア難民がエジプト、イラク、ヨルダン、レバノン、トルコへと逃れている。



○タリバンがアフガン第5の町襲撃、一部を占拠 死傷者多数、刑務所から数百人逃亡か

2015. 9. 28 22:52

アフガニスタンのイスラム原理主義勢力タリバンが28日、アフガン第5の町、北部クンドゥズを襲撃し、現地の警察当局者は産経新聞に、町の一部がタリバンに占拠されたと明らかにした。治安部隊とタリバンの双方に多くの死傷者が出ている。

住民によると、タリバンは中心部の広場に旗を掲げた。町の半分以上を占拠し、刑務所から、数百人の収容者を逃亡させたとの報道もある。(ニューデリー 岩田智雄)

<http://www.sankei.com/world/news/150928/wor1509280065-n1.html>

○アフガン内務省「クンドゥズを奪還」

2015. 10. 1 11:48

【ニューデリー＝岩田智雄】アフガニスタンのイスラム原理主義勢力タリバンに占拠されていた北部クンドゥズについて、アフガン内務省のセディキ報道官は1日未明、短文投稿サイト「ツイッター」で、「アフガン特殊部隊が今、クンドゥズを支配している。(町は) 奪還され、テロリストは排除された。敵には

<http://jp.reuters.com/news/world/mideast> →

【中央アジア】

甚大な犠牲が出た」と明らかにした。

クンドゥズ警察のフサイニ報道官は産経新聞の電話取材に「町は完全に奪還された。現在、知事庁舎にいる」と述べた。

<http://www.sankei.com/world/news/151001/wor1510010022-n1.html>

○アフガンで「長老」10人を爆殺する映像 タリバンが非難声明

2015. 8. 12 21:01

【ニューデリー＝岩田智雄】アフガニスタンでイスラム原理主義勢力タリバンの協力者が構成員とみられる男性10人が、イスラム教スンニ派過激組織「イスラム国」の集団に爆殺される様子を収録した「処刑」映像が12日までに、インターネット上に公開された。タリバンは犯行を非難する声明を発表した。

映像は、男性らが山野の地中に埋められた爆弾の上に目隠しをされて座らせられ、遠隔操作で爆弾が爆発する様子を収録している。男性らは7月9日に起きたイスラム国とタリバン、アフガン政府の戦闘で捕獲された者とされ、「政府軍やタリバンを助け、イスラム国への密偵行為をはたらいた」と説明されている。

パキスタンと国境を接する東部ナンガルハル州の指導者、ハジ・アジム氏は産経新聞の電話取材に、「殺害されたのは、この州の長老たちだ。解放交渉をしようとしたが、イスラム国の連中は聞く耳を持たなかった」と述べた。

タリバンは声明で「イスラムやイスラム教徒をかたった、ひと握りの無責任で無知な者たちによるこうした犯罪や残虐な行為は、我慢できない」とし、地元指導者に犯人を処罰するよう命じた。ただ、タリバンも各地で爆弾テロなどで多数の市民を殺傷している。

イスラム国は、アフガンやパキスタン、イランの一部を含む地域を「ホラサン州」として領土にする宣言し、タリバンとの間で交戦がしばしば起きている。

<http://www.sankei.com/world/news/150812/wor1508120047-n1.html>

○アフガン政府とタリバン、初の公式和平協議 次回がラマダン明けに

2015. 7. 8 22:02

【ニューデリー＝岩田智雄】アフガニスタン政府とアフガンのイスラム原理主義勢力タリバンによる初の公式和平協議が7日夜、パキスタンの首都イスラマバード近郊で行われた。アフガン、パキスタン両政府が8日、発表した。今後、協議の進展が期待されるが、和平実現は容易ではない。

会議はパキスタンの主催で行われ、米中両国の代表者も立ち会った。アフガン政府とタリバンは、地域の平和のために、誠実に全力で取り組むことで合意した。次回協議は、今月下旬のラマダン(断食月)明け以降に行われる。両者はこれまで国際会議の場で代表者が顔を合わせたり、水面下で接触したりしてきたが、和平協議が発表されたのは初めてだ。

パキスタンでは、タリバンと同盟関係にあるイスラム武装勢力「パキスタンのタリバン運動(TTP)」によるテロが相次ぎ、

シャリフ政権は昨年、対話路線からテロ掃討に方針転換した。外交筋や専門家によれば、治安悪化に業を煮やした軍が、支援を与えてきたタリバンに対し、和平協議開催に応じなければ、パキスタン国内での潜伏を許さないと警告していた。

背景には、アフガン政府に、アフガン内に逃げ込んだタリバン運動を掃討するよう求める狙いや、経済協力を進めつつイスラム過激派のテロに悩まされる中国からの圧力がある。テロによる混乱が、カシミール問題で対立するインドに付け入る隙を与えることも、軍は強く警戒している。

一方、アフガンでは 7 日もテロが発生した。タリバンは強硬派も抱え、和平協議が進んでも、硬軟両様で交渉を有利に進めようとするのは確実だ。アフガンで勢力拡大を図るイスラム教スンニ派武装組織「イスラム国」への離脱者が増すことも懸念される。

<http://www.sankei.com/world/news/150708/wor1507080053-n1.html>

○オマル師死亡 タリバンも認める 世界欺き死後 2 年も「偽声明」 後継は序列 2 位

2015. 7. 30 23:11

【ニューデリー＝岩田智雄】死亡していたことが判明したアフガニスタンのオマル師は、イスラム原理主義勢力タリバンの最高指導者として 1990 年代、恐怖政治でアフガンを支配した。2001 年の米中樞同時テロの首謀者である国際テロ組織アルカーイダのウサマ・ビンラディン容疑者をアフガンに迎え、賓客としてもてなすなど、欧米の最大の敵の一人だった。

オマル師の死は 29 日、アフガン大統領府によって発表された。2013 年 4 月に、パキスタン南部カラチの病院で死亡したという。タリバンも 30 日に死亡を認めた。

死後約 2 年もの間、タリバンがオマル師の名で声明を発表し続けたのは、米軍などと戦うムジャヒディン(イスラム聖戦士)の精神的支柱だったからに他ならない。タリバンは今後、世間を欺いていたことで信頼を失う危機にさらされる。

タリバンの関係者は 30 日、産経新聞などの取材に、序列 2 位のマンスール幹部が後任の最高指導者に、強硬派のハッカニ幹部がそれに次ぐ地位に選ばれたと明らかにしたが、団結を保てるかが課題となる。

タリバンが公開した伝記によれば、オマル師は 1960 年、南部カンダハル州生まれ。叔父が開くマドラサ(イスラム神学校)で学び、旧ソ連のアフガン侵攻時の戦いで右目を失った。ナジブラ共産政権が崩壊すると、社会の腐敗や軍閥の横暴を止めるため、94 年の宗教指導者の会議で決起するよう求められたという。

首都カブールを制圧し、暫定政権樹立を宣言したのが 96 年。その支配の実態は、宗教警察を操る恐怖政治だった。女性の就労や教育を事実上禁止し、男性にはひげを生やすことを強要し

た。音楽や映画を禁じ、違反すれば容赦なく罰を科した。盗人には手を切斷する厳罰を与えた。マドラサの閉鎖社会で育ったことが、こうした人格を形成したといわれる。

2001 年 3 月には中部バーミヤンの巨大石仏をイスラムに反するとして破壊。同年 9 月の米中樞同時テロ後、米側のビンラディン容疑者の引き渡し要求を突っぱね、米軍などの攻撃が始まった際には「米国や同盟国は何もできはしない」との肉声を発表した。姿を見せることはめったになく、動向がほとんど分からない謎の人物だった。

一方、アフガン政府とタリバンの 2 回目の公式和平交渉についてパキスタン政府は 30 日、同国で 31 日に行う予定だったが延期したと発表した。交渉の行方はいっそう不透明になった。

<http://www.sankei.com/world/news/150730/wor1507300055-n1.html>

○タリバン新指導者が武装闘争継続を示し アフガン首都で連続テロ、50 人殺害

2015. 8. 8 19:00

【ニューデリー＝岩田智雄】アフガニスタンで、イスラム原理主義勢力タリバンによるテロが相次いでいる。7 日には、首都カブールで計 50 人が殺害された。アフガン政府との和平協議に前向きなタリバンの新最高指導者のマンスール師は、組織内部で反発を受けており、強硬策を示すことで支持をつなぎ止めようとしているようだ。

カブールでは、警察学校が自爆テロに遭い、地元当局によると、26 人が死亡、25 人が負傷した。自爆犯は警官の制服を着ており、タリバンが犯行を認めた。この後、カブール空港近くの国際駐留部隊基地が武装集団に襲撃され、9 人が殺害された。未明にはカブールの国防省付近で爆弾を積んだトラックが爆発し、近くの住宅地に暮らす 15 人が死亡、240 人が負傷した。

6 日には、東部ロガール州で起きた自爆テロで 8 人が犠牲となり、タリバンが犯行声明を出した。南部ザブール州で 17 人が死亡したアフガン軍のヘリコプター墜落でも、タリバンは自分たちの犯行だと主張した。

マンスール師は 1 日に発表した団結を訴える声明で「ジハード(聖戦)を続けなければならない」と武力闘争を呼びかけしており、一連のテロはこれに従ったものといえそうだ。

タリバンは 7 月、公式和平協議開始にかじを切り、聖戦と同時に交渉を行う正当性を主張する前最高指導者オマル師の声明を出した。しかし、同師が 2 年前に既に死亡していたことがその後判明。声明はマンスール師によって作成されたものとみられている。

<http://www.sankei.com/world/news/150808/wor1508080048-n2.html>

【南アジア】

2015. 8. 17 00:11

○「タリバンの父」ハミド・グル氏死去

ハミド・グル氏(パキスタン情報機関、3 軍統合情報部の元

長官) 地元メディアによると 15 日、脳出血のため首都イスラマバード近郊マリーの病院で死去、78 歳。

隣国アフガニスタンのイスラム原理主義勢力タリバンの創設を支援したとされ、「タリバンの父」とも呼ばれた。

79 年の旧ソ連軍によるアフガン侵攻後、パキスタンで養成したムジャヒディン (イスラム戦士) を送り込み、ソ連軍を撤

退に追い込んだといわれる。87～89 年に 3 軍統合情報部 (ISI) 長官を務めた。

米国やインドに批判的なことでも知られた。(共同)

<http://www.sankei.com/world/news/150817/wor1508170005-n1.html>

【東南アジア】

○インドネシア「9・30事件」から50年 歴史の闇に埋もれ、謝罪いまだなく 惨劇味わった住民「川は血で真っ赤だった」と証言

2015. 10. 1 05:00

インドネシア建国の父、スカルノ初代大統領の失脚と大虐殺の端緒になった 1965 年の「9・30 事件」から、30 日で 50 年となった。陸軍左派の反乱を鎮圧したスハルト少将 (当時) は権力を奪取して、32 年に及ぶ長期独裁に道を開いた。国軍は、スカルノ氏に接近して勢力を広げていたインドネシア共産党 (PKI) のクーデターとみなして掃討を進め、住民による党员粛清も奨励し、全土で 50～200 万人が虐殺されたとされる。虐殺に加わった住民らは誰一人処罰されておらず、民主化が進んだ現在も被害者側は抑圧に苦しんでいる。(中ジャワ州ソロ 吉村英輝)

鮮明な記憶

甘い旋律で、日本でも流行した民謡『ブンガワン・ソロ』で知られるソロ川は、「人の血で真っ赤に染まった」。郊外の橋のたもとで暮らす女性、マルトムさん (80) が当時を振り返る。

「決まって夜 10 時過ぎ、トラック一杯に連れてこられた人たちが橋の上に並べられ、銃声が響いた。数カ月続き、10 回は聞いた。翌朝の川は真っ赤だった」

多くの仲間をこの橋で殺されたという元小学校教諭のムリヤディさん (72) は、PKI 関係者と疑われ 32 カ月間、拘束された。解放後も、スハルト時代は身分証に「元政治犯」の印が押され、家族も社会から差別されてきた。(以下略)

<http://www.sankei.com/world/news/151001/wor1510010006-n1.html>

【東アジア】

○訪日では政治避け経済特化? 総統選候補の蔡英文 民進黨主席が会見「日本の経験に学びたい」

2015. 10. 1 19:17

【台北＝田中靖人】台湾の野党、民主進歩党の総統選候補者、蔡英文主席 (59) は 1 日、日本メディアと台北市内の党本部で会見し、6 日からの訪日をふまえて「台湾の次世代の経済発展のために、日本の経済・産業界との連携を強化したい」と述べた。5 月末～6 月の訪米では中台関係について「現状維持」の方針を発表したが、訪日では政治・外交関係の話題を避け、経済分野に絞りたい意向をにじませた。

蔡氏は、高齢化や国際的な競争力育成など「台湾と日本の社会は同様の問題に直面している」とした上で、「日本の経験を参考にしたい」と語った。また、バイオ技術や精密機器産業での日台連携の可能性を探るとし、環太平洋戦略的経済連携協定 (TPP) への加盟問題でも、日本の交渉姿勢や農業改革を学びたいとの意向を示した。

台湾は、長年の課題となっている通常動力型潜水艦の取得計画について、米国経由の完成品購入から自主建造へとかじを切っている。蔡氏は将来、日本への技術提供要請も「排除しない」と述べた。

<http://www.sankei.com/world/news/151001/wor1510010045-n1.html>

○投票用紙集計機の発注を中国から台湾に変更 フィリピン、「選挙妨害」を懸念

2015. 9. 21 17:56

【シンガポール＝吉村英輝】フィリピンの選挙管理委員会が、来年 5 月の大統領選などで使われる投票用紙集計機の発注先を中国から台湾に変更したことが明らかになった。南シナ海の領有権で対立する中国が、選挙妨害を計画していると、情報機関から指摘を受けたためとしている。ロイター通信が 21 日までに伝えた。

在フィリピンの中国大使館は 16 日、「中国が来年の選挙で妨害を試みているとされる話は完全に事実無根で全くの作り話」との声明を発表。「中国は他国の内政には干渉しないという原則を堅持してきた」と反発している。

選管幹部が最近、情報機関から南シナ海問題を理由に中国が選挙妨害を計画していることを知らされたと、議員たちに説明したという。幹部は、どのような妨害を想定しているかについて詳細は明らかにしなかったが、2 万機の集計機の発注を中国から台湾に変更するとした。

選挙は、正副大統領のほか、上下両院や地方など、1 万 8 千人以上の議員選出をめぐり行われる。

一方、米政府関係者の定宿として知られ、中国の保険会社によって買収されたたニューヨーク市マンハッタンにある名門ホテル「ウォルドルフ・アストリア・ニューヨーク」について、アーネスト米大統領報道官は 11 日の記者会見で、今年の国連総会出席の際にオバマ大統領は同ホテルに宿泊しないことを明かした。米メディ

アなどによると、中国による米政府機関へのサイバー攻撃問題が懸案となる中、中国企業が所有するホテルに大統領が宿泊するのは機密保持の点から望ましくないと

の意見が出ていたという。

<http://www.sankei.com/world/news/150921/wor1509210039-n1.html>

- アジアンレポート拡充のためボランティアスタッフを募集します。お問い合わせください。
- ニュースレターへの感想をお願いします。
- レター掲載原稿を募集します。

○ キルギス共和国特命全権大使リスベク・モロドガジェフさん離任



青山学院大学留学中、ユーラシアンクラブの仲間としてフォーラムを開催したり、キルギス共和国のイシクル湖湖畔をテントを張りながら一緒にツアーしたリスベク大使が 8 月離任した。3 年にわたり、日本とキルギスの交流促進に努め、大きな成果を挙げて、送別のパーティが品川で開催され、江藤セナ理事長、井口隆太郎理事らとともに労をねぎらいました。

2016 年秋以降、日本橋三越本店一階中央広場を一週間借り切って

「アジア・シルクロードウィーク」開催計画

自転車振興会に補助金申請。アジア・シルクロード 7 カ国大使館・三越・名橋「日本橋」保存会と共催で

日本やアジアの基層文化形成に重要な役割を担ったシルクロード諸国の文化を発信

理解親睦協力を促進するのが目的

この計画は、ユーラシアンクラブの本部事務局を新宿から日本橋に移転して間もなく、江戸歌舞伎誕生の背景に、クシャーン朝に遡るアジアの音楽史があり、モンゴルが中国を支配した元の時代にトルコ系の火不思（クーブース）やチベットのダムニヤンを素材として、元朝の表象となる三種類の三弦（大三弦、中三弦、小三弦）が造られ、福建省を含む中国江南地域に普及した小三弦が、福建省から 1392 年に首里城に伝わり、1562 年沖縄から堺に着いた交易船で織田信長や琵琶法師の手に届いた。1625 年、江戸開府と共に、日本橋中橋の新地に小屋を開いた薩摩浄運の浄瑠璃小屋の浄瑠璃三味線が、猿蓑勘三郎の中村座の歌舞伎と出会い、日本橋の江戸歌舞伎誕生につながる、時空を超えたアジアの音楽史の終着駅日本橋の物語が完結する。今のアフガニスタンからウズベキスタン、キルギスを経由し伝わった、ペルシャ系のバルバットを起源とし、薩摩琵琶につながるもう一つの四弦琵琶の音楽史と三弦の音楽史が、琵琶法師澤住検校の掌で交錯する物語でもあった。この音楽史には、クシャーン朝時代に出現した大乘仏教伝播のシルクロード史、ソグドからウィグルへ中央アジアのペルシャからトルコへの変遷、チンギスハーンのモンゴル帝国などダイナミックなアジア・シルクロード史が背景にある。

「アジア・シルクロードウィーク」に参加する大使館は、トルクメニスタン大使館、アフガニスタン大使館、タジキスタン大使館、ウズベキスタン大使館、カザフスタン大使館、キルギス大使館、モンゴル国大使館の 7 カ国大使館。それぞれ大使の承認を頂き、今後、三越、名橋「日本橋」保存会そして事務局役のユーラシアンクラブと運営委員会を設置し、運営委員長は加藤九祐先生にお願いする予定です。今後企画の詳細を具体的に積み上げていく計画です。この事業実施に必要な経費は、自転車振興会に補助金を申請しています。

この事業を 2020 年まで継続し、日本を含むアジアの基層文化形成に人類史的に大きな役割を果たした、シルクロード地域の重要性を広く発信する計画です。皆様のご理解ご支持を心から希望しています。

発行：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ 発行人：江藤セデカ
住所：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-11-5 TEL：03-5376-9343
支部愛川サライ 〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314-1
TEL：046-285-4895 FAX：046-265-0167 E-MAIL：paf02266@nifty.ne.jp
郵便振替：00190-7-87777 ユーラシアンクラブ お振込の場合：ゆうちょ銀行〇一九店 当座預金 0087777 ユーラシアンクラブ 会費、ご寄付はこちらへ。会費は正会員年間 1 口 3,000 円、学生会員 1,000 円、賛同会員 2,000 円。一口以上のご協力をお願い申し上げます。

<http://eurasianclub.org/>

2015 0701 Non Profit Organization Eurasian Club

編集後記：世界各地で起きている戦争、紛争は、男社会（国家）が、イデオロギーを隠れ蓑に、優勢な勢力がさらに優位を保つために、軍事的戦略上の利益を守るために戦端を開くものようだ。古来人類が男社会となって以降、女性や若者を守ることが出来ず、棄民を生じ、希望を失った若者を傭兵とし国家の支えとして成り立ってきた。差別的ヒエラルヒーを国家の軸としているのは、あまねく世界中の国家で見られることであり、希望の持てる人類の未来像は未だに手にしていない。多数の論理をいいことに勝手な判断が横行している。私のできることは限られている。今私ができることを可能な限り全うしたい。多少のメッセージを発信しながら（お）